

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども 	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
			未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
			児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に應ずることなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	自ら学びに向かい、創造力・表現力に富み、正解のない課題に納得解を導く子の育成	主体的に学びに向かう力の涵養とともに、学習習慣の確立	「学びのすすめ」「自主学習ノート」「寺小屋」の推進等、授業と家庭学習との連携強化	4 寺小屋…実施回数90%以上 3 寺小屋…実施回数80%以上 2 寺小屋…実施回数70%以上 1 寺小屋…実施回数70%未満	4	4 診断シート…正答率向上30%以上 3 診断シート…正答率向上20%以上 2 診断シート…正答率向上10%以上 1 診断シート…正答率向上10%未満	3	学習が遅れがちな児童を対象として、放課後毎週1時間の指導を継続している。基礎学力と自己肯定が向上し、保護者から評価も極めて高い。	学習支援の一環として、学習障害やディスレクシアの系統的な指導も構築していく。
		生きて働く基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	UDやICT、授業スタイルやノートの統一、板書や発問の工夫等、効果的な学習指導	4 教科でのICT活用…90%以上の授業 3 教科でのICT活用…80%以上の授業 2 教科でのICT活用…70%以上の授業 1 教科でのICT活用…70%未満の授業	4	4 診断シート…正答率50%未満10%未満 3 診断シート…正答率50%未満20%未満 2 診断シート…正答率50%未満30%未満 1 診断シート…正答率50%未満30%以上	3	分かりやすく、主体的な学びにつながるような授業の工夫はもとより、全学級で1人1台端末を効果的に活用した授業を展開している。	ICT機器を、教員は「賢い教具」として、児童は「賢い文房具」として役立てていく。
		未知の課題に納得解を導き、新たな価値を創造する力の育成	「探求ノート」を活用した課題解決等、自ら考え判断し表現する学習と深い学びの重視	4 探求ノートの活用…年20回以上 3 探求ノートの活用…年10回以上 2 探求ノートの活用…年5回以上 1 探求ノートの活用…年5回未満	2	4 探求ノート…未記入箇所10%未満 3 探求ノート…未記入箇所20%未満 2 探求ノート…未記入箇所30%未満 1 探求ノート…未記入箇所30%以上	3	全校で活用できる系統的な「探求ノート」の作成には至っていないものの、各学年で生活科や総合の時間を中心にワークシートを積み重ねている。	全校で6年間を見通して活用できる系統的な「探求ノート」を作成していく。
豊かな心	認知機能を高め、自分も他の人も尊重し、敬意をもって大切にできる心豊かな子の育成	個性を生かし、相互の信頼関係を深め、自己有用感の醸成	「h-QU」の結果を生かした児童集会や縦割り班活動等、異年齢集団の活動の推進	4 児童集会…実施率90%以上 3 児童集会…実施率80%以上 2 児童集会…実施率70%以上 1 児童集会…実施率70%未満	3	4 社会通念上のいじめ…0~5件 3 社会通念上のいじめ…6~15件 2 社会通念上のいじめ…16~30件 1 社会通念上のいじめ…31件以上	4	全校で、自己有用感を重視した学級経営に取り組んでいる。児童集会も様々な形で実施し、互いを認め合い、自分の価値を感じる児童が多くなった。	QUの結果を踏まえた特別活動を工夫し、豊かな自己表現力を醸成していく。
		認知機能を高め、自他共に敬意をもって関係する力の育成	「コグトレ」や学級活動の工夫による認知機能や感情統制、やり抜く力等の重視	4 コグトレ…実施率90%以上 3 コグトレ…実施率80%以上 2 コグトレ…実施率70%以上 1 コグトレ…実施率70%未満	4	4 意欲的にコグトレ…80%以上の児童 3 意欲的にコグトレ…70%以上の児童 2 意欲的にコグトレ…60%以上の児童 1 意欲的にコグトレ…60%未満の児童	4	物事をやり抜くことや、人と敬意をもって関係する姿勢が高まってきており、学校が穏やかで居心地の良い場所と感じている児童が多くなってきた。	コグトレを一層系統的に、社会性、感情統制、対人スキル等の育成に取り組んでいく。
		自他を大切にし、よく生きる、内面に根ざした道徳性の涵養	問題解決的あるいは体験を通じた発問構成の工夫、広い視野で考え議論する道徳	4 考え議論する道徳…実施率90%以上 3 考え議論する道徳…実施率80%以上 2 考え議論する道徳…実施率70%以上 1 考え議論する道徳…実施率70%未満	2	4 自分事として考える…80%以上の児童 3 自分事として考える…70%以上の児童 2 自分事として考える…60%以上の児童 1 自分事として考える…60%未満の児童	3	どの学年の児童も、自分の言葉で、自分の意見や思いを語る姿勢や力が付いてきたが、感染防止の観点から、十分な話し合い活動ができなかった。	話し合い活動を充実させ、多面的な意見に耳を傾け、考え議論する道徳を推進する。
健やかな体	基本的な生活習慣を身に付け、運動に親しみ、心身共に健康で活力に満ちた子の育成	新しい生活様式に基づき、人の命を守る意識と行動力の育成	「グッドモーニング60分」等、家庭との協働を強化し、感染防止と新しい生活様式の定着	4 健康観察表未記入…1日平均0~2人 3 健康観察表未記入…1日平均3~5人 2 健康観察表未記入…1日平均6~9人 1 健康観察表未記入…1日平均10人以上	3	4 病欠児童…1日の平均0~3人 3 病欠児童…1日の平均4~7人 2 病欠児童…1日の平均8~11人 1 病欠児童…1日の平均12人以上	3	感染防止の取り組み等を通して、基本的な生活習慣や健康について、家庭との信頼関係を築いている。児童の病欠が大幅に減少している。	家庭との意思の疎通とともに、多様な啓発をすることで、家庭と協働していく。
		基礎的な体力の向上と生涯に渡り運動に親しむ資質能力の向上	「元気アップガイドブック」を活用した運動習慣につながる授業の工夫、家庭との連携協力	4 元気アップの取組…18項目以上 3 元気アップの取組…14項目以上 2 元気アップの取組…10項目以上 1 元気アップの取組…10項目未満	1	4 運動することが楽しい…80%以上の児童 3 運動することが楽しい…70%以上の児童 2 運動することが楽しい…60%以上の児童 1 運動することが楽しい…60%未満の児童	2	体育集会ができないなど、元気アップの活用が低迷しているが、中休みや放課後に、体育委員や外部指導員を活用した取り組みを始めた。	運動会に向けて、運動への関心が高まっており、継続した取り組みにつなげていく。
		様々な欲求やストレス等に対して、適切に対処できる力の醸成	自殺防止授業の他、全学年で「SOSカード」を活用した多様な対処方法を推進	4 相談できる3人記入…児童の90%以上 3 相談できる3人記入…児童の80%以上 2 相談できる3人記入…児童の70%以上 1 相談できる3人記入…児童の70%未満	4	4 大人に相談できる…90%以上の児童 3 大人に相談できる…80%以上の児童 2 大人に相談できる…70%以上の児童 1 大人に相談できる…70%未満の児童	4	担任以外にも自分のことを気にかけてくれるという意識が高まり、話しやすい大人が校内にたくさんいるという雰囲気が出た。	すべての児童が、いつでも心を開いて大人と話ができるように、信頼関係を高めていく。
輝く未来	未知の課題を思索し、新たな価値観や行動を生み出し、協働して未来を創造する子の育成	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力の育成	学校図書館に学習・情報センター機能をもたせ、全教育課程で言語活動を充実	4 図書館機能を活用…全学級月4回以上 3 図書館機能を活用…全学級月3回 2 図書館機能を活用…全学級月2回 1 図書館機能を活用…全学級月1回以下	3	4 話合いができる…80%以上の児童 3 話合いができる…70%以上の児童 2 話合いができる…60%以上の児童 1 話合いができる…60%未満の児童	3	学校図書館の環境整備を進め、読書指導を工夫・充実させるとともに、学習・情報センター機能をもたせ、様々な授業で活用するようになった。	言語能力とともに、未知の課題に向き合い思索する力を育成する方策を立てていく。
		情報活用能力とともに、新たな解を創造する力の醸成	1人1台の端末やオンラインの活用など、見方・考え方を働かせながら思索する場の充実	4 タブレットの活用…全学級週10回以上 3 タブレットの活用…全学級週6~9回 2 タブレットの活用…全学級週3~5回 1 タブレットの活用…全学級週3回未満	4	4 情報リテラシー…概ね満足80%以上 3 情報リテラシー…概ね満足70%以上 2 情報リテラシー…概ね満足60%以上 1 情報リテラシー…概ね満足60%未満	4	各教科の授業のねらいを達成し、深めるために、タブレットを日常的に活用するとともに、情報リテラシーや情報モラルを育成している。	6年間を見通して系統的・計画的に情報リテラシーや情報モラルを育成していく。
		多様な文化を尊重し、世界の人々と協調し活躍できる人材に育成	「キャリアパスポート」の活用等、家庭や地域と連携・協働した自己実現への手立ての充実	4 キャリアパスポート記入…児童の90%以上 3 キャリアパスポート記入…児童の80%以上 2 キャリアパスポート記入…児童の70%以上 1 キャリアパスポート記入…児童の70%未満	4	4 将来のことを考えている…80%以上の児童 3 将来のことを考えている…70%以上の児童 2 将来のことを考えている…60%以上の児童 1 将来のことを考えている…60%未満の児童	3	これまで各学年が取り組んできたキャリア教育を、市統一の様式を活用して、より系統的に積み重ねができるようになってきた。	キャリアパスポートを学校と家庭がしっかりと共有し、一人一人の児童を支援していく。